

人の多様性に満ちていた



「進学校だから、絵が上手でも注目されませんでした」と三池敏夫さん



熊本高校の学生服には両袖口に白い線。「入学前、憧れました」と嘉悦朗さん

怪獣映画などのミニチュアセット作りを仕切る特撮デザイナー三池敏夫さん(55、1980年卒)が幼いころは、ちょうど「怪獣ブーム」で、テレビや映画で怪獣があふれていた。

高校時代はおとなしかった。職人のようなモノ作りが好きで、将来は映画かアニメに携わりたいと思った。「美大に行きたい」と進路指導の先生に相談したが、「美術じゃ食っていけないよ」と反対され、九州大学工学部に進学した。

大学の勉強は嫌だったが、ミニチュアを自己流で作ったり、関連の映画やテレビを見たりと、自主的な勉強は続けた。卒業後に上京し、特撮を

手がける「特撮研究所」でアルバイトから始めた。子ども向けテレビ番組の特撮の現場で、ピアノ線をつられたロボットが目の前で動く様子を初めて見たとき、「これがずっと来たかったところだ」と興奮した。その後、「カメラ大怪獣空中決戦(1995年)など、特撮デザイナーとして数々の実績を上げてきた。最近では「シン・ゴジラ」(2016年)でも特撮美術を担当した。

特撮で使われた模型やデザイン画などの展覧会「特撮博物館」が2012〜15年に全国5カ所で開かれた。うち1カ所は熊本。大勢が訪れた。「地元で特撮と言っても理解されないと思っていたけど、初めて『いいね』と言われた感じがした」

サッカーJ1の横浜F・マリノス元社長、嘉悦朗さん(61、74年卒)は、熊本高校を「自由奔放。多様性に満ちた学校」と振り返る。東京大学を目指す人もいれば、バイクを乗り回す人もいた。自身は部活には入らず、

かといって勉強もあまりせず、1浪して一橋大学へ進学した。

日産自動車へ就職すると、一貫して人事部門を歩んだ。日産が経営危機に陥った1999年、カルロス・ゴーン氏の力で、日産再建のための9つのプロジェクトチームのうちの1つ、組織と意思決定プロセスの変革をテーマとするチームでリーダーを任された。

部門ごとの縦割りの意識が強かった社内に、部門の枠組みを超えた議論と意思決定を促す仕組みを導入した。「一見、面倒なプロセスになるけれど、そういう健全な摩擦を避けていたから、結果的に部分最適に陥ってしまっていた」

09年7月には日産の執行役員からマリノス社長に転身。マリノスの黒字化を実現した。13年シーズンが一番印象に残る。ホーム最終戦でJリーグ史上最高の6万2632人の入場者数を達成するとともに、21年ぶりに天皇杯優勝。「ロッキールームで選手と一緒に優勝の喜びを分かち合えた」

15年末に社長退任後は、日産改革の経験を各地で講演している。「産業史に残るような稀有な体験を、語り部として多くの人と共有する。ライフワークかな」